

受入教員：MacIntosh Andrew

研究題目：マカク類の感染症が宿主の行動に与える影響とそのリスク評価

D Jones (アメリカ合衆国、ケント州立大学・大学院生)

(2017.6.20~2017.8.21)

受入教員：後藤幸織

研究題目：ニホンザルグループケージでの社会的行動の観察とその遺伝的基盤の解明

S Koopman (アメリカ合衆国、ロチェスター大学・大学院生)

(2017.9.1~2018.2.28)

受入教員：友永雅己

研究題目：ヒト以外の霊長類における数概念の形成に関する比較認知科学研究

B Kubenova (チェコ 南ボヘミア大学)

(2017.11.1~2019.10.31)

受入教員：MacIntosh Andrew

研究題目：ニホンザルにおける乳幼児 handling および乳幼児とワカモノの社会関係の形成

5. 日本人研究員・研修員

日本学術振興会特別研究員(PD)

山本知里 (2017.4.1~2020.3.31) 受入教員：友永雅己

研究題目：ハンドウイルカにおける社会的知性に関する比較認知科学研究

栗原洋介 (2017.4.1~2018.3.31) 受入教員：半谷吾郎

研究題目：屋久島に生息するニホンザルの社会変動を引き起こす生態学的メカニズムの解明

6. 研究集会

所内談話会

(*Asura International Seminar (Primateology and Wildlife Science)との共催)

第1回：2017年4月27日(木)*

Anna Wilkinson (Visiting Associate Professor, Wildlife Research Center of Kyoto University, University of Lincoln)

「Cold-Blooded Cognition」

第2回：2017年10月10日(火)

松本結 (国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第七部 研究員)

「マウスの超音波コミュニケーション」

鈴木俊貴 (京都大学生態学研究センター)

「シジュウカラの音声コミュニケーション」

第3回：2018年2月27日(火)

六車明 (慶応大法科大学院 教授)

「ハードローとソフトロー –法律とガイドラインはどこがちがうのかー」

磯崎博司 (上智大学大学院地球環境学研究科 客員教授)

「野生生物に関する国際法と国内法 –法令遵守と公正取引ー」

第4回：2018年3月27日(火)

Christian T.Herbst (Laboratory of Bio-Acoustic, Dept. of Cognitive Biology, University of Vienna,

京都大学霊長類研究所特定准教授)

「The myoelastic-aerodynamic theory of sound production in humans, mammals, and birds」

第5回：2018年3月28日(水)

Janet Nackoney (Associate Research Professor, Department of Geographical Sciences at the University of Maryland)

「Geospatial information informs conservation efforts in the Democratic Republic of the Congo」

(文責：時吉真由美、服部裕子)

7. 2017年 霊長類学総合ゼミナール

The Interdisciplinary Seminar on Primatology 2017

日時：2017年12月14日(木)

場所：京都大学霊長類研究所 大会議室

発表：22件(口頭：14件、ポスター：8件)

霊長類学総合ゼミナールは霊長類学系の正式なカリキュラムに組み込まれており、毎年TAを中心とした大学院生が企画運営し、所内の教員、研究員、学生の研究交流を促進することを目的として開催されている。本年は、